

美高からトータル・サティスファクションの 実現を目指して

=====校長室より

第 6 号 「中学生の視点、高校生の視点」

本日 7 月 9 日、広島市立五日市観音中学校で中学生対象の学校説明に私も同行しました。同中学校の卒業生で、本校第一学年の Sa さんと Su さんによる堂々たる学校説明の後、彼らがファシリテーターを務める探究の授業を中学生に体験してもらいました。リーダーシップを発揮して本校でも活躍中のこの 2 名の生徒は、自分の母校の多くの後輩たちの前での発表やファシリテーションということですが最初は緊張していましたが、時間が経過するにつれて堅さがとれ、普段の自分たちの持ち味を次第に発揮してくれました。

帰り道に、「どうだった？」と感想を求めると、「来てよかった」「やってよかった」と話してくれました。やる前には、「あー、どうしよう・・・」という気持ちで一杯だったはずの彼らが、終わった後は達成感に満ちており、大きな成長の機会になったのではないかと思います。これも本校のグローバル探究科の育成の一環であり、明日は今回の発表体験について教職員とともに振り返りを行い、彼らの情報伝達力・発信力の向上に加えて、学校として説明会のさらなる質的向上もめざしていくこととしています。生徒も学校も WIN-WIN の成果を収めつつ、成長してまいります。

本日の中学生対象の模擬授業では、カードゲームを使用して、様々な条件の下でどう予測するかを自分の視点で述べるグループワークを行いました。これも本当に面白いもので、あるグループでは、「高齢化が急速に進行する」+「朝はどうなる？」という設定での個人の意見発表の場面で、「ラジオ体操が盛んになる」との中学生らしい柔軟な視点での意見が出て、「おーナットク！」と大変盛り上がりました。帰りには中学生の皆さんや先生方が校舎からたくさん声をかけてくださって、ファシリテーターを務めた 2 名の本校の生徒は感激していました。五日市観音中学校の皆さん、本当にありがとうございました。



この「世代ごとの視点」は非常に貴重なもので、実は 2 日前に開催された本校の企業等との連携会議である「第 1 回コンソーシアム会議」でも、様々な地元の連携企業や行政機関・大学教授から「高校生の視点」には強いニーズがあると指摘されており、具体的には地域と連携して制作するカレンダーの場所の選定、保育園との連携で自然を生かした保育園での遊び場のアイデア、地元のシャッター街の活性化等について、「高校生の視点」がその斬新さから強く求められています。

現在アメリカでは、AI の台頭による就職難を受けて、大学が入学生に求めている人材は、「機械的な暗記力によりテストで満点をとることや興味関心の方向性が決まっている」高校生ではなく、「自分の研究テーマが明確に決まってい、かつ新しい仮説をもち、専門家に負けない知識をもった」高校生なのだそうです。今すぐではありませんが、いずれこの流れは間違いなく日本にもやってくることでしょう。そんな時代を生き抜く人材を本校では「探究活動」を通じて高校生年代から育成してまいります。